

今回の企画の狙いは、「横浜発展の理由を探る」

理由その1「吉田新田」 理由その2「横浜開港」 理由その3「京浜工業地帯」

ということで、みんなでそれを探っていきましょう!!!

- ① 13:05～13:45 横浜市開港記念会館
- ② 14:00～15:00 横浜税関資料展示室
- ③ 象の鼻
- ④ 日本大通
- ⑤ 15:30～16:30 横浜開港資料館 ～途中コンビに立ち寄り～
- ⑥ 17:00 大棧橋着 18:00 東海汽船乗船 ～ 19:45東京竹芝棧橋着(解散)



上は今年3月に実施された「三塔の日」のパンフレット。普段は非公開のところも見学できる場所がある。横浜港開港記念日などのイベントでも同様の機会がある。



横浜三塔:キングの塔(神奈川県庁) クイーンの塔(横浜税関) ジャックの塔(横浜市開港記念会館)

☆☆☆

横浜三塔の愛称は、昭和初期に外国船員がトランプのカードに見立てて呼んだことが由来とされています。「キング」神奈川県庁は、五重塔をイメージさせるスタイルで、昭和初期に流行した帝冠様式のはしりといわれています。昭和3年(1928)竣工、高さ約49m。「クイーン」横浜税関は、イスラム寺院風のエキゾチックなドームが特徴です。昭和9年(1934)竣工、高さ約51m。「ジャック」横浜市開港記念会館は、東南隅に時計塔、西南隅に八角ドーム、西北隅に角ドームを配しています。大正6年(1917)竣工、高さ約36m。【引用:神奈川県HP】 ☆☆☆

☆ 横浜開港資料館で歴史を学ぼう



☆ 東海汽船 さるびあ丸(横浜～東京クルーズ)

乗船後、Cデッキ後方のレストランに集合。大島直送の島寿司を用意。みんなで乾杯しましょう。京浜工業地帯の光の海の観測も忘れずに。

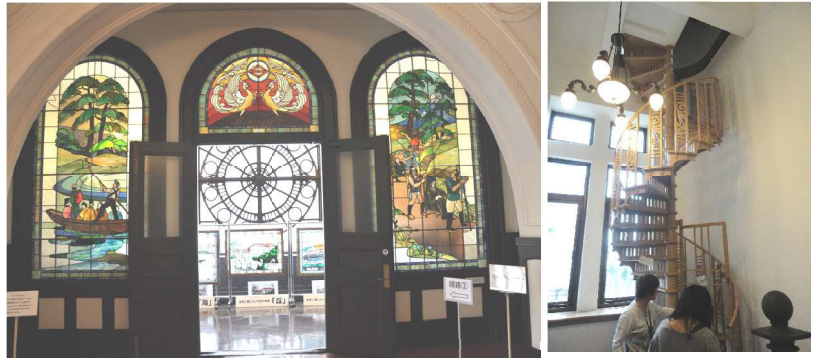


## ① 横浜市開港記念会館

横浜開港50周年を記念し、市民の寄付金により大正6年(1917)に創建されて以来、横浜の代表的建造物の一つとして多くの市民に親しまれてきた。

昭和34年(1959)からは「横浜市開港記念会館」の名称で、公会堂として利用されている。平成元年には国の重要文化財に指定された。2階のステンドグラスも国の重要文化財となっている。

塔の先端に上るには狭い螺旋階段を登っていくが、これは特別な日のみで普段は非公開。今年3月6日の三塔の日に公開されたが、300名の定員には希望者殺到であつという間に達してしまった。



## ② 横浜税関

税関は、関税及び内国消費税等の徴収、輸出入貨物の通関、密輸の取締り、保税地域の管理などを主たる目的・業務とする国の行政機関である。日本においては財務省関税局の地方支分部局として置かれる国の機関で全国を次の9つの税関でカバー。

【函館税関、東京税関、横浜税関、名古屋税関、大阪税関、神戸税関、門司税関、長崎税関、沖縄地区税関】

### ☆ 近代日本における税関の歴史

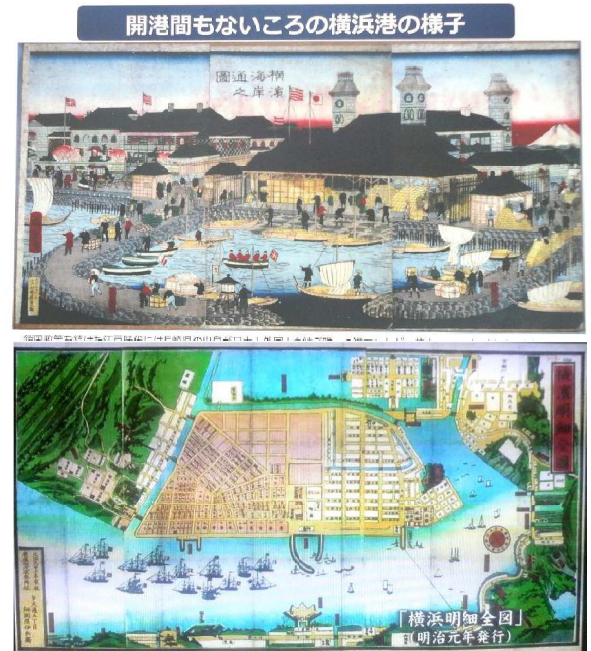
1854年 - 日米和親条約が結ばれ、日本は諸外国に対し港を開き始める。

1859年 - 長崎、神奈川及び箱館(函館)の港に「運上所」が設けられ、今日の税関業務と同様の、輸出入貨物の監督や税金の徴収、外交事務などを扱うことになる。(税関の前身)

1872年11月28日 - 運上所は「税関」と改められる。(税関の日)

右上の絵は三代広重が明治3年(1870)に描いたもので、神奈川運上所(日の丸の立つ建物)、その後の3本の塔はイギリス領事館、左後ろは各国商館が並ぶ外国人居留地となっている。(横浜開港資料館所蔵)

右下の図は明治元年(1868)発行の「横浜明細全図」で、中心に運上所が設けられ、この島の東側、図の左三角形に見える部分が外国人居留地と定められている。



### ☆ ところで、本日の見学はクイーン広場の展示だけであるが・・・

税関建物内公開 【日時】平成28年6月5日(日) 10:00 ~ 17:00(事前予約及び人数制限なし) 入場料:無料

【公開場所】① 7階ロビー、横浜港を一望することができる。② 3階保存室、昭和9年の創建当時に復元された、マッカーサー元帥も執務したと言われている旧税関長室他3室。⇒ 時間のとれる方は、明日もご見学ください。

## ③ 象の鼻 横浜開港にあたり2本の突堤が設けられたが、波の影響を避けるために東側の突堤を弓なりに延長。

その形から「象の鼻」と呼ばれるようになった。この手前の広場には、荷物を運ぶための線路が敷設され、現在、その線路と、転車台のあとが残されている。

## ④ 日本大通

明治3年(1870)に横浜公園と象の鼻波止場を結ぶ街路がイギリス人建築家リチャード・ブランドンの設計により日本初の西洋式街路として完成、この通りは明治8年(1875)に「日本大通り」と名付けられる。歩道3メートル・植樹帯9メートルを含む36メートルの幅員を持ち、横浜のメインストリートの役割を果たした。



## ⑤ 横浜開港資料館 … 企画展示や特別資料コーナーで学びましょう！

資料館は新館・旧館となっているが、旧館は元英国総領事館（横浜市指定文化財、平成19年(2007)、経済産業省「近代化産業遺産」に指定）である。昭和6年(1931)に建てられたもので、1階中央の記念ホールは旧英国総領事館時代には待合室だったところ。中庭にあるタブノキは、通称「たまくす」と呼ばれていて、嘉永7年(1854)のペリーに随行してきた画家が描いた「横浜上陸」絵に描かれた木がそれにあたると考えられている。



### ☆企画展示 ハマの大地を創るー吉田新田から近代都市へー

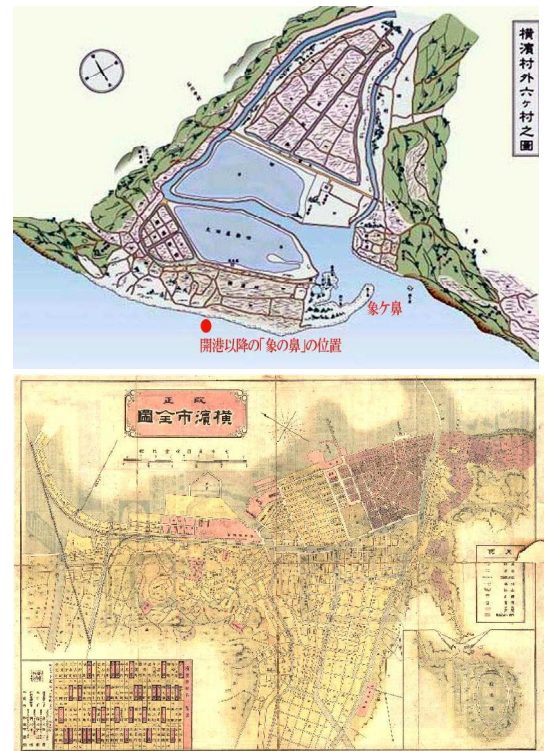
市役所や県庁などが所在する横浜市中心部は、かつては元町あたりから北へと伸びる横浜村の砂州と、それによって東京湾と区切られていた入海だったが、江戸時代の新田開発により、次第に田や畑といった耕地へと変わった。

結果的に、この入海の陸地化が開港場の建設を容易にするるとともに、その後における都市域が拡大する用地を準備したことになり、江戸時代における新田開発が近代横浜の基盤を創り上げたことになる。

この入海に成立した新田の内、最も早くかつ大規模であったものが吉田新田。江戸の材木商人である吉田勘兵衛によって開発されたこの新田は、350年程前の寛文7年(1667)に完成した。

吉田新田の開発により、入海の約8割が陸地となり、その後、残された入海も19世紀初めから半ばにかけて、横浜新田・太田屋新田として開発されていった。今年、平成28年(2016)は、吉田勘兵衛が吉田新田の開発を開始した明暦2年(1656)から360周年にあたる。

右地図は「改正横濱市全圖」で1897年当時の横浜の街が描かれている。



### ☆特別資料コーナー ペリーの来航と横浜開港

- ・嘉永6年(1853)6月3日、開国を求めたアメリカ大統領の親書を携えて、ペリー艦隊が浦賀沖に来航
- ・同月9日、ペリーは久里浜に上陸して国書を渡すとともに、その回答を求めて明年に来航することを約する
- ・嘉永7年＝安政元年(1854)に再び来航。横浜で交渉が行われ、**日米和親条約** が締結されて日本は開国
- ・安政5年(1858)にはアメリカ・オランダ・ロシア・イギリス・フランスの5か国との間で**修好通商条約** が締結
- ・安政6年(1859)6月2日に横浜が開港

今回の展示では、こうした開国・開港の始まりとなった嘉永6年における第1回ペリー来航の様子を、当時作成された瓦版によって紹介します。【引用：<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/news/event-guide.html>】

以下【引用：横浜開港祭 <http://www.kaikosai.com/about/reason.html>】

もともと神奈川が開港の候補地とされていたが、東海道沿いで外国人とのトラブルが予想されたため、当時、辺鄙で取り締まりやすい横浜の地が選ばれた。横浜は水深も十分あり港として優れていたため、開港後は急速に発展した。

【おまけ】 歩く途中にはこんなものもあります。明治時代に通関・発送事務を取り扱っていた商社の建物の一部が展示されている。「大正12年(1923)の関東大震災で大部分が倒壊してしまいましたが、当時の日本人商社建築の記録と関東大震災の記憶を現在に伝える貴重な歴史的遺産」と、説明板に書いてある。





## 横浜駅の歴史

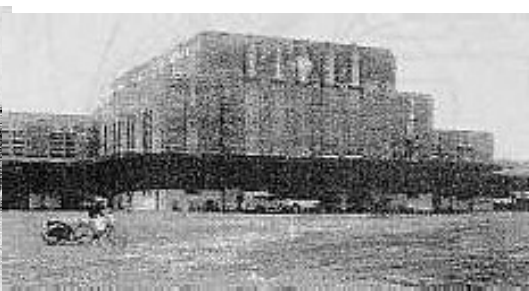
【引用：Wikipedia 横浜駅】



初代横浜駅 1872 (M5) 年開業



2代目横浜駅 1915 (T4) 開業



3代目横浜駅 1928 (S3) 竣工

現在の横浜駅付近は幕末まで海の中であり、明治維新直後に高島嘉右衛門らが埋め立て事業を行い、鉄道が敷設された。海はその後も現在の西口近くに「平沼」として残った。

1872年6月12日(明治5年(旧暦)5月7日) - 品川駅からの鉄道路線が開通し、横浜駅(初代)が開業。駅舎の設計は、アメリカ人建築家のR・P・ブリジェンスで、新橋停車場と同じデザインだった。

1887年(明治20年)7月11日 - 横浜駅(初代) - 国府津駅間が開通。新橋駅方面と国府津駅方面を直通する列車は初代横浜駅で進行方向を反転(スイッチバック)していた。

1898年(明治31年)8月1日 - 東海道本線のスイッチバック解消のために初代横浜駅を bypass しない短絡直通線が開通。横浜駅以西への直行優等列車は、横浜駅の代わりに上りは程ヶ谷駅(現在の保土ヶ谷駅)、下りは神奈川駅停車とし、横浜駅 - 程ヶ谷駅間を連絡する小運転列車が設定されていた。

1901年(明治34年)10月10日 - 短絡線上に横浜の人の利便を図って平沼駅(現在の横浜駅に程近い位置)を設置。優等列車は神奈川駅と程ヶ谷駅に代わってこの平沼駅に停車していた。

1914年(大正3年)12月20日 - 京浜間での電車運転開始に伴い横浜側の仮終着駅として高島町駅が開業。

1915年(大正4年)8月15日 - 東海道本線の横浜通過を避けるため、現在の地下鉄高島町駅付近に横浜駅(2代目)が開業(旅客駅)。横浜駅(初代)を桜木町駅に改称。平沼駅廃止。高島町駅は横浜駅京浜線ホームとなる。

1923年(大正12年)9月1日 - 駅舎が関東大震災で焼失。

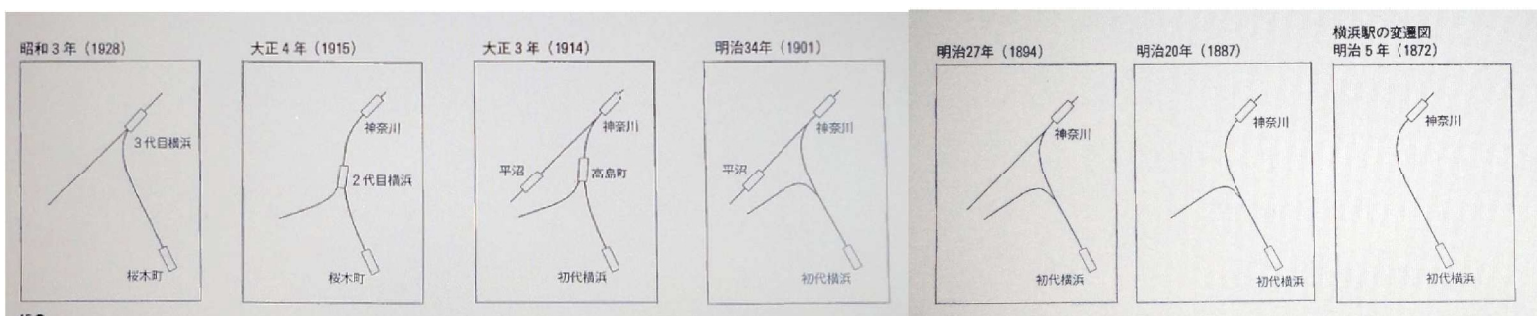
9月7日 - しばらくの間仮駅舎を設置して営業。この頃に平沼が完全に埋め立て。

1928年(昭和3年)5月18日 - 東京横浜電鉄線(現在の東急東横線)が開通。

10月15日 - 横浜駅がさらに北側、現在地に移転。東海道本線を現在のルートに変更。神奈川駅を廃止。この時、横浜駅には汽車線ホームのみが設置され、京浜線ホームは設置されていなかった。そのため、駅の東口に京浜線仮ホームを設置した。また、2代目横浜駅も当駅構内扱いの高島口乗降場として残された。

1930年(昭和5年)1月26日 - 京浜線 横浜 - 桜木町間経路変更、横浜駅に京浜線ホームを設置。高島口乗降場閉鎖。  
2月5日 - 京浜電気鉄道線(現在の京急本線)が開通。

1933年(昭和8年)12月27日 - 神中鉄道線(現在の相鉄本線)が開通。現在の西口は砂利置き場だった。



## 神奈川宿 出典：『ウィキペディア（Wikipedia）』



右上：神奈川宿（歌川広重『東海道五十三次』：現在の青木橋付近から横浜駅西口方面にあった海を望む）  
右下：料亭田中家。広重の画に描かれた「さくらや」のあたりに現存。坂本竜馬の妻、龍（おりょう）が仲居として働いていたところ。

**神奈川宿**（かながわしゅく）は、東海道五十三次の3番目の宿場。神奈川湊の傍に併設された町であり、相模国や武蔵国多摩郡方面への物資の経路地として栄えた。なお幕末には開港場に指定されたが、実際には対岸の横浜村（現在の中区関内地区）が開港となり、開国以降次第に商業の中心は外国人居留地が作られた横浜村に移っていった。

### 概要

旧東海道は現在の国道15号と宮前商店街を通り、神奈川駅及び青木橋の西側、台町、上台橋を通過して保土ヶ谷方面へ進む。台町から海を見下ろす眺望は十返舎一九の『東海道中膝栗毛』や歌川広重の浮世絵にも紹介され名所とされた。

成佛寺の東にある神奈川地区センターの前には高札場が再現され、館内に江戸時代の神奈川宿のジオラマが展示されている。

### 神奈川湊

神奈川湊とその湊町は、鎌倉時代には鶴岡八幡宮が支配し、室町時代には関東管領上杉氏の領地となった。江戸時代には東海道が整備され、慶長6年（1601年）に神奈川へ宿場が置かれた。神奈川宿と神奈川湊は、幕府の直接支配を受け、神奈川陣屋がこれを担った。神奈川湊の周辺には、北に生麦湊、新宿湊があり、南に戸部湊、野毛湊があった。

安政5年（1858年）、神奈川湊沖・小柴（横浜八景島周辺）に碇泊していたポーハタン号上で日米修好通商条約が締結された。同条約では「神奈川」を開港すると定められていた。しかし、街道を通行する日本人と、入港する外国人との間の紛争を避けるために、神奈川湊の対岸にある横浜村に港湾施設や居留地をつくり、開港した。これが現在の横浜港となった。そのため、外国人に対しては横浜は神奈川の一部と称した。

右の写真は順に  
浄龍寺（旧イギリス領事館）  
慶運寺（旧フランス領事館）  
本覚寺（旧アメリカ領事館）

